

季節の風景 7月

打ち水

戦国から安土桃山時代を経て「茶の湯」が成立しました。「茶の湯」では、礼儀作法としての「打ち水」が行われます。



元々、「打ち水」は神様が通る道を清めるためのものでしたが、江戸時代には、「打ち水」が俳句に詠まれたり、浮世絵に描かれており、涼の手段として一般的であったと考えられます。打ち水の目的には、夏の暑さを和らげることに加えて、道の土埃（ちりぼこ）を、客を招く時に玄関先や道に水を撒くことで心地よく迎える、お清めの意味などがあつたようです。

そして、近代から現代に入り、生活の中に密着していた「打ち水」は徐々に姿を消していきました。エアコンの普及に伴う窓を開めた生活時間の増加や、高層住宅の普及に伴う「打ち水」の恩恵を受けない世帯の増加などの変化が要因だと考えられます。

しかし、近年はヒートアイランド現象などから都市部においては、大暑（7月23日頃）の日に合わせて、大々的に「打ち水」のイベントが開催されているところもあり、政府も地球温暖化対策キャンペーンの一環として「打ち水」を奨励しているそうです。

打ち水やまだ夕立の足らぬ町

正岡子規（明治25年）



▲紐取



▲▼世代リレー



▲じゃんけん列車の後、こっぱこりやせ音頭



▲タッチマン



▲四万十ツアー



▲紙風船たたき合戦



▲こっぱこりやせ音頭



今月の
人オウリ
ホンモノの杓さばき！



いのうえ ひろふみ
井上 博文さん
（高野）

窪川小学校では学期に1回、様々なジャンルの「地域の達人」を先生にした「土曜日学校」という取り組みが行なわれていて、常時10人前後の子どもたちが参加しています。その土曜日学校で和太鼓を教えている井上博文さん。井上さんの和太鼓は「ホンモノ」です。

別に、それほど熱い思いがあつたわけではなく、まあ面白そうではあるな程度でした」という井上さんでしたが、月に1回のペースで京都に通っているうちに、徐々に和太鼓に魅せられていきました。

実は、京都のその集団というのは、かのメジャー和太鼓集団「鬼太鼓座（おんどこざ）」から独立した人たち。つまり、本物中の本物。ご存知の方も多いいと思いますが、和太鼓を極めるには強靱な肉体も必要で、「鬼太鼓座」や「鼓童」などのメジャーな和太鼓集団のメンバーたちの引き締まった肉体は目を見張るほどです。ですから、井上さんいわく「月に1回の京都では、太鼓をたたくというより、走りに行つていたようなこともありました。そう、トレーニングですね（笑）」

その数も少なく、太鼓をたたくのも交代制。順番を待つ間は、古タイヤをたたいていたそうです。それでも井上さんにとつての和太鼓の魅力は薄れることがなく、むしろ深くなつていきました。



▲やはり杓（バチ）さばきは本物!!

また、独立して間もない集団で資金も乏しいため、太鼓

現在は、旧若井川小学校の体育館で、娘さんや息子さんたちと練習しながら、小さなイベントなどに出演しています。その杓（バチ）さばきはさすがです。

第5回

国際交流地区民運動会

in 松葉川

6月4日、高知大学の留学生や学生、住民ら300人が参加し、米奥小学校グラウンドで運動会が行われました。前日に開催されたネパールとカンボジアのお菓子や日本の田舎寿司を教える世界の料理教室、ホームステイに続く国際交流イベントの二環で、9か国18人の留学生や学生53人が地域住民と親睦を深めました。当日は澄み切った青空の下、地区別に3チームに分かれ、留学生3人の選手宣誓と準備体操の後、18競技で汗を流しました。



▲縄ない競争



▲実行委員長あいさつ 佐竹孝太さん

紙風船たたき合戦や紐取、大縄綱引きなど迫力満点の競技のほか、大人にとっては日頃の運動不足との戦いのリレー、タッチマンという目隠しされた男性が自分のパートナーを指の感覚だけで当てるユーモアあふれた競技もあり、笑い声が会場全体に響きました。

平成29年度 第5回 国際交流運動会 種目一覧

1	紙風船たたき合戦	10	大玉ころがし
2	早くお食べ	11	はちきん魂
3	あふれよ噴水	12	紐取
4	かけっこ	13	おっかけ玉入れ
5	世代リレー	14	タッチマン
6	四万十ツアー	15	ムカデ競争
7	あの鐘をなすのはあなた	16	大縄跳び
8	縄ない競争	17	400歳リレー
9	こっぱこりやせ音頭	18	大縄綱引き